

523  
MTR 12

溪江入楚

辛習

53

Handwritten text, very faint and illegible.

Handwritten text, very faint and illegible.

Handwritten mark or symbol.

Handwritten text, very faint and illegible.

Handwritten text, very faint and illegible.

Handwritten text, very faint and illegible.

Handwritten text, very faint and illegible.

Blank page with a small dark mark near the center.

自習

大五歳

大将

卷の二の女と云ふれまゝなり女と云ふれまゝなり此事なりと云ふ  
娘の年いふをうゝの事と同年の事なりと云ふ

松葉大七七葉のゆゑ書したる所はまゝに姑吟候と見付  
はあゆませしむ聖教の事と云ふてより細をうゝの

卷の女よりこの月の十未より秋までれり此書に女  
より日時のよりより女七りの書きたるのゆゑと云ふ

横川信幼母危并妹長谷宿陽法言令法流事

定法院樹下より変化御事

と号見之女也妹危養子事 此女則は母也

定法乃信人ありて信幼而して物原定法姫君と云ふ

子細その御葬送れ難事定法よりまゝなりゆゑと云ふ

いえ事なりゆゑと云ふと云ふ事なり台付事と云ふ姑吟候同

時より云ふ事横の事と云ふ事但信幼事と云ふ事

事と云ふ事なりと云ふ事と云ふ事小僧の危れと云ふ事



大尾云之源紀伊守兼小野定

詔大將友与那君中兼定

自習君中兼定

小宰相君以信於物語語大將友定

大將森山中堂之次欲宿横川事

自習

以詞為卷右

浮舟君身とかけ 後の河乃らやう 洲よりとらりり

よみいふとらり 詞書乃内よ 日下河乃ら 時山乃書とらり

てらら前より 別の厨はれ どのいふとらり 時山乃書とらり

すはらとらり 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

詞とらり 書れぬとせり 甚う大將女と兼れ 去より 大定れ

去より 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

卷ノ君以詞号之 どのいふとらり 詞書乃内よ 日下河乃ら 時山乃書とらり

ゆいしうけうの事乃松と 同い 時山乃書と 兼れ 兼れ 兼れ 兼れ 兼れ

の事し 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

卷れ乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら

乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら 乃ら



平為家初得物之間為令悅令送其物於母之許世返報云昔  
形送之物取不悅願者偏世修道之營也云云即隨母命止諸  
緣隱居于横川谷修淨土之業寬弘元年五月廿四日任權大  
僧都同日辭表一期取修善根者念佛二十俱胝及大經經  
五万五千五百卷念阿彌陀大咒百万及尊勝陀羅尼七万  
及千手陀羅尼七十万及佛眼不動光明真言不遑注進又取  
造書籍雖多其中往生要集三卷一乘要集三卷殊勝末朝明  
聖本見性生要集摧化取作祿表讚嘆寬弘二年十二月十日朝  
飲食如常淨身口無所痛捕佛御千絲念佛數百及眠終給年  
七十六而已

大和物語云何らり深くもわらぬ世の常此の心と云ふと云  
るらりやと云ふらりありけり云々云々云々云々云々云々  
あるに云ふらりて云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

信信傳記云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

而僧都于日山竊之間自尼許示遣云老病少湯罷罷成——今一度對面大切之、雖然限日數之山竊難出洛可然者、乘輿可來會西坂本之由返若早於下松辺相待之處輿已到來僧都進寄容儀見之処尼上既逝去相輿判清義房 修學院清義先心經七卷讀之次以界呪加持之忽心又奉念地藏則其獲生之吉更證之

此後之…… 僧都下……

…… 僧都……

…… 加持之…… 持者行者三業人

…… 三業之…… 加持之……

…… 金峯山精を…… 後教……

…… 此家…… 此家……

…… 此家……

…… 此家……

…… 此家……

…… 天一神…… 常……

…… 天一神……

…… 天一神……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……

…… 平尊院……



何と有り此女は

美當に此翁

井 中流の翁と人の病して得しと翁平あり疾は如  
きし海をわ 當とありて

このまゝその人の病にを病より得 翁は病の約あり  
いよふれり

井 中流の翁と  
とらそふれあつていふことして 秘 中流の翁とありて

て得たなりといふ連なりといふこと 井  
けしやせれそのあつたこととありてありてあり

井 同 板の法師と二人と  
秘 一先危云よそいふは師といふ事と

秘 今いふ所の傳説の條にてあり  
物ありてありて 人志相いりてあり

とや此のちそくをさかんとはしりて  
秘 中と心ととはしりてあり  
秘 是れと心ととはしりてあり

しられしとわしとありてあり  
秘 多しといふれ毛といふ名を唐今傳に發如作と作心

秘 法師ありといふことあり身毛とありてあり  
秘 劫を云梳髪子下りまき物のありてありてあり

秘 ありてありてありてありてあり  
秘 ありてありてありてありてあり

秘 ありてありてありてありてあり  
秘 ありてありてありてありてあり

秘 ありてありてありてありてあり  
秘 ありてありてありてありてあり

秘 ありてありてありてありてあり  
秘 ありてありてありてありてあり

秘 ありてありてありてありてあり  
秘 ありてありてありてありてあり

秘 ありてありてありてありてあり  
秘 ありてありてありてありてあり

しらやしの家なり

私法ゆけ義と不用の海の伝物なり

わりのさきゆき

ひかりいま

奥のこしきさきさき

り岡梨二人れり

うこののく人まらると

秘傳部ノ細

水鏡云欽明天皇出時其のまふ時やとありし中女成

と書して甲子一人ありて月日とあるは

わらな上二月十日とありしは

とありしは

とありしは

とありしは

妻の女とありしは

はのうのありて

帝王系書云同沖宇に之河玉に狐成人書と云右塚有狐

妖且先化為婦人顔色好頭髪雲鬘髮而變格大尾長衣作長江

裳徐之行傍荒村路日欲没時人靜処或歎或悲啼貞良文集

之怪哉之貞良文集五通ノ中ニ神境通ト云變ハ是ノ妖通報通神通ニ也

つゝと別れに狐狸と云ふは變ナリと云妖通と云と歎して

わら希と云ふは

よちて穴と云ふは

あゝいゝい報と云ふは

まこの通と云ふは

變り出候うらぬ

の通い候ふ

義傳部

わりのさきゆき

御厨子而を食物と

烟すをありしは

秘傳部ニ人れり

まのこしき

變化乃のふ

法師れぬ

義 志言平... ともらねる。人とあつし

いさし七葉... ね 非常

何乃さぬくは流のらよとてゆらん 死今とて流の内

よんゆき... 所のあつし

さつ... 樹神... 木神

騷魅廻空谷響 大日經 尾傳任云騷ハ山林異氣胎生為人害道

欺 和名 又詐云云

ま... 流の由みれり

あ... 事ある人とも

あ... 事あり

あ... 秘密

あ... 秘密

あ... 法師たれ

あ... 何たれ

あ... 事あり

あ... 傍於れ

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり

あ... 事あり



秘 心経と祇園とをわすれのあやうむとあり 美

よしてしつとせしと 美 祇園の氣とて烟とてしとの海

とつとせしとせしと

わんわんぬくさうらぬさ 秘 偽物乃之をけしり

ふつふつと死事 美 いるる人そと恐怖し

えんふとまめをけしりさうらぬさ 秘 目と見とあり

又とせしとせしと

わんわんぬくさうらぬさ 秘 偽物乃之をけしり

花婿の尾のあしむきをわすれらうらぬさ 秘 美 浮舟れをけしり

中へくる事とわすれらうらぬさ

おちのたまふとせしと 秘 石用し

ついでとありとせしと 秘 変化乃わすれ

おれぬよとせしとせしと 秘 美 花婿の尾とて烟と

しつとせしとせしと 秘 変化乃わすれ 美

秘 假色迷人猶若是真色迷人應過此 白氏文集 古塚航

二日つりありありと 秘 院とてしつとせしと

あつとせしとせしと 秘 母乃大尾とてけとせしと 美

そのとせしとせしと 秘 字法し

秘 八文此御女在古将友のあしむき 美 浮舟れをけしり

秘 浮舟れをけしり 秘 浮舟れをけしり

秘 葬送 雑交し 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと

秘 舟とてしつとせしと 美 舟とてしつとせしと



此の如くしてさうしん 偽邪ノ類

こころさうしん 偽業及ん

よめりてんめりて 妹の尼乃偽邪此より後とて

まろく人そむくしん 物じしん有浄りて此の如く

おろくしん 秘 念此より

契 妹の尼乃偽邪より

尼の如くしんめりて 義 偽邪乃詞

人の御しん 義 境浄ん

見の来詳 密 面ん 義 曰

くく此むくのみこと 端正者自忍辱中来く 大集任文

花 法華經隨喜功德品云 面慈端嚴為人取喜見

義 花多し

秘 戒行乃巧能ある人

とらりやとすりてせらる 秘 ちんりて此の如く

義 此の如くしんめりて事しんめりて

何れはしんめりて此の如く

たつたそのらんよきことして 秘 仏も種ある事ハ

あつたそのらんよきこと

きんめりてしんめりて 花 法華經云 佛種從縁起とて

義 今案一切色心諸法之種子ヲハ中ハ阿頼耶識含蔵セリト條

津此縁よりして現行して仏も成生も成物たる

義 今案此縁の古地有縁此縁よりして生れざる

縁有縁しん縁なけしん現行せし菩薩此縁よりして

成りゆらん此縁の如くも少地の尼云よ此の如く

あつたその浮身者とて此の如く

おろくしん 義 云清しん

て隠道なる人なり

これじん此法師 無慙法師

唯識論云 何無慙不観自法 轉桓賢善為性能 障礙慙生長 惡行

為業

御つたそのらんめりて此の如く 諸戒之中 廉強罷ハあつ







しらふぬりや

花温鬼くぬる氣のそく

美うらむいれさくさくしきけり

あしきもゆむりあしき 尼君れうい阿のいふあへ

あしきれうしきあしき ほうあを中きとくしきあへ

いともけりて ほうあの花くさくさくさくさくさく

あつるまれのしきあしき

いともけりて 美五戒く尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 秘ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき ほうあを尼よるぬゆり

あつるまれのしきあしき 美あを尼よるぬゆり



此歌川ありてなり

おとろまゝにりたりと 美 浮舟此方の上とさみりあへ

かとりけし波の川をわきまへて舟をさし

みづれけり り 舟の川とぬねと君と

あつとさしとさし此事とさし

りよ急もさしとさし 秘 舟をさしとさし

それとさしとさし舟の中へさしとさし舟をさしとさし

むねのつとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

物ありて舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

昔に 秘 舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

舟をさしとさし 秘 舟をさしとさし

秘 尾公色うししつり

せうしれむと 美尾公れしつり 女れむしつり

おさうとのせんしつりの君 美中ねれむしつり 信知れむしつり

横川よかりた乃きつり 横川つ小野のうしつりのみ

如し

うららうしつりわてやうの君 早中ねあしつり 之代まはれ

秘 中將も小野君と云具すしつり 事し 前の折りと箱すしつり

美の尾公にてかきせしつり 美子留君れむ白の事し

秘 信尾公れむしつり 此事しつり 事し 出つり

うれむしつり 事し 早中ねれむ白の事しつり 事し 合てつり

うららうしつり 事し 女高む核校を秋乃しつり 事し 女れむ

美 美しつり 事し 中將の休の人しつり

美もあしつり 事し 美中將も信知と云しつり

と 事し 女六せとあむしつり 事し 中將の幸しつり

おららうしつり 事し 美公あしつり 事し とき

と 事し 此のつり 事し 秘 尾公のしつり

おららうしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

と 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり

おららうしつり 事し 秘 尾公のしつり 事し 美中ねれむ 事し 中將の休の人しつり









浮師の君は母の事志こころいとういふ

何れなりけりこころれと

又中おのこころ

ひしおこころれあらしするうれ

秘信しお徳を

ありあや

私こころれあらし

あらしこころれあらし

又お徳なりあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

私こころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし

あらしこころれあらし





うらやまもあやうし  
世にわらうとて世にさし  
おと君ともわらうとて出づ  
のめり

のめり  
のめり  
のめり

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

美  
おの君はあの中とて  
おの君はあの中とて

ふと行くとちと歩らんしうづ家

可憐 日本紀

中へ此れ月と夜とあつて心なまらんかたせりや  
万葉の中へ夜は將夜又新夜とありけりしと情をあらわ  
うらみちらるる言もあはれなりぬ事

秘 花平の駒あつていまこゝんか約しと  
川舟も動うりていふゆゑさうり 兼昇  
とらうけらるる言ひも 中ねのあはれ舟もそとらん

あつてさゆとあつてさゆとさゆと  
此れ言ふらんりぬ 兼尼とらあなり

秘 尼此れ第の言ひめそ中ねとさゆとさゆと  
ちう此れ月とあつてとんぬかあの踏らるる言ひぬ

秘 前のあつてさゆとさゆとさゆと  
兼 亦此さゆと踏らるる言ひと中ね此れ月とさゆとさゆと  
とさゆとさゆとさゆとさゆとさゆとさゆと  
それとあつてさゆとさゆとさゆとさゆと

秘 半海さゆのさゆとさゆとさゆとさゆとさゆと

秘 此れ言ふらんりぬと兼尼とらあなり  
秘 亦此さゆと踏らるる言ひと中ね此れ月とさゆとさゆと  
とさゆとさゆとさゆとさゆとさゆと

秘 此れ言ふらんりぬと兼尼とらあなり  
秘 亦此さゆと踏らるる言ひと中ね此れ月とさゆとさゆと  
とさゆとさゆとさゆとさゆと

秘 亦此さゆと踏らるる言ひと中ね此れ月とさゆとさゆと  
とさゆとさゆとさゆとさゆと

秘 亦此さゆと踏らるる言ひと中ね此れ月とさゆとさゆと  
とさゆとさゆとさゆとさゆと



はらうしとちひて 秘 大尾乃氣のあひらく 義

とのりしれく 秘 前同 義

秘 とのりしれ君と云 義

昇 大尾乃氣のあひらく 義  
とのりしれく 秘 前同 義  
とのりしれ君と云 秘 前同 義  
とのりしれく 秘 前同 義  
とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

とのりしれ君と云 秘 前同 義

とのりしれく 秘 前同 義

此書にひしひと書かれてうらやまを述べたり  
昔のゆゑに尼云の體と引くもあらはれぬなり  
あしき物さひとねむ

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
私に尼云の書くはひしひと書く  
大尼云はひしひと書く  
さしひしひと書く

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く

此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く  
此の事と云ふに尼云はひしひと書く



敵身はに親義利せしむればとてり又の波浪不能漫との  
らふも所り建てる如く方とけんとせしむる存命人  
命下したるはあまのさうり

私石及川守丸

あつたにさゆよの 親義利のあつたにさゆよの  
おとらにさゆよのあつたにさゆよの

ひる

こころをせせ物ら川のうさぬよのあつたにさゆよの  
二平の杖

死

二平の杖の白文書はあつたにさゆよの  
あつたにさゆよのあつたにさゆよの

義

あつたにさゆよのあつたにさゆよの  
あつたにさゆよのあつたにさゆよの

死すに不用之但此況も可ぬれ

私二平の杖の白文書はあつたにさゆよの

二平の杖の白文書はあつたにさゆよの

あつたにさゆよのあつたにさゆよの

あつたにさゆよのあつたにさゆよの

死

あつたにさゆよのあつたにさゆよの

秘

あつたにさゆよのあつたにさゆよの

あつたにさゆよの

あつたにさゆよの

あつたにさゆよの

あつたにさゆよのあつたにさゆよの

あつたにさゆよの

あつたにさゆよの







鬼のとりとらさむし  
い母にあらむもさし  
あしとらさむし  
あそりしとらさむし

あそりしとらさむし  
あそりしとらさむし

花

真達しと鬼のとりとらさむし

美

我と有と捨あむし

悪行のあむし

あむし

秘是よりいふあむし

あそりしとらさむし

秘中君れしと

あそりしとらさむし

秘りりれ事し

あそりしとらさむし

秘白文し

美

白文しとらさむし

あそりしとらさむし

秘梅の少婦のあむし

白哥の年ふらむし  
あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

あそりしとらさむし

美

あそりしとらさむし

先も物の中より懐きとて父母はたてまつりて 是の人の事  
乃父母のしはれりり号妙く川舟なるかき流きの言と多  
て母と子の物よりを表されは法とも不すい長年の言  
まゝの事しとて  
松代家へ後うけし

さしとわつてあまきく色  
こり記とて

もあれつ事と物とてこの事とわあしとあつてくさあ  
人の家のくらしとて一人にわつてあつて

かまへりしとて  
美多お君し粥とてしつて  
美信信なるの人もあつて

さしとわつてあまきく色  
美多お君し粥とてしつて

信部くまありとせなる事  
小母人あつてとて

もさしとわつてあまきく色  
美多お君し粥とてしつて

一あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

あつてはし物の子  
美多お君し粥とてしつて

二方なりせし人

秘のりひの君なり

傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

大尾をたしきま

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

あつらへたを向うて

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり

あつらへたを向うて

秘傍のりひの君なり





くはしとんと

義子のれうおの尾よ告げ

まらひてさそしんるん

少の尾

解洲のちのちをさるや

秘傳の教

秘傳の教を教へり

おれゆらこあつこまらり

又おれ言と教へり

りゆらこまらね

秘傳

美おれあつたあつこまらり

えおれあつたあつこまらり

美おれあつたあつこまらり

あつたあつこまらり

秘傳

りゆらこまらね

奥の尾より告げ

くろくろかり

美尾

ゆらこまらね

秘流轉と界中

流轉三界中恩愛不能断奇恩入無為真實報恩者

あつたあつこまらり

美恩の道

秘傳 美恩の道と云ふは 我々の親と云ふは 我々の親と云ふは 我々の親と云ふは

秘傳

親のしほしと云ふは 我々の親と云ふは 我々の親と云ふは 我々の親と云ふは

入い又ま真の教をさる 親のしほしと云ふは 我々の親と云ふは 我々の親と云ふは

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

あつたあつこまらり

心算して此所申由はあらぬのこそ 皆く此おたの池  
を申すらん人なる人 人の心とてまじ  
今より申すらん人なる人 けして文字は清濁有る

秘 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

世にも人なる人 此世に事のあるらん人なる人

〇〇〇〇〇〇〇〇

はと申すらん人なる人 〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

きしうのんせよや 中ぬのし將の尾をなせし

あらうや 兼やそ中ぬの又し

あしんうあれた 秘多ノ細

中 中ぬのし將の尾をなせし

秘 中ぬのし將の尾をなせし

秘 中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

中ぬのし將の尾をなせし

いよ〜と多〜とれたのた 義 葉のうらむ傍那の路と

あ〜り〜り

〜とわ〜の〜と縁 義 御使法と又七言もの入州とあらせ

ゆる〜

〜とた〜とつ〜とせ〜 り 長長〜二言此長長〜

私一おれまこれ長長〜とつ〜物

〜と〜と〜と〜と〜と〜 困 困〜見は〜と〜と〜と〜と〜と

お〜り〜御使法〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 中文と一お交と

并 中文の女一交一京とある〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 中文此御

世〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 傍那〜御〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 今もま〜と傍那に似合〜と御

御物の名のう〜と〜と〜と〜と〜と〜 義 明石中文の御

〜と〜と〜と〜と〜と〜 り 希〜と事 秘

義 傍那の〜と〜と〜と〜

彼〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 傍那は子と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 義

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 今も君見〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 中文此腹入〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

大將の〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 今も〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 今も〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 中文此水〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

それ女人 秘 女人〜

小町にゆ〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 傍那の母や妹と〜

出島の心〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 今も君見〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 傍那妹の厄事〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 中將の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 今も君見〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜 秘 今も君見〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜



小宰おのたけり きてもあらずけえ宣りぬと

姫君おころり 義女一文此御物乃氣申後しる

うしきたりより人まひ 義小中へ信那のしりあふ

ひししとくしとて 尾公此信那とくしり

言ひもわつせ候 尾公此信り信りんとゆて後合わく

しとくしとく

かたし御物さういと 尾公此信那此り子

ころみさりのよきしとくしとく 秘しては宣後しと

まふれいふ御物さういと 尾公此信那此り子

とくしとくしとくしとく 尾公此信那此り子

私物の氣もくしとくしとく 尾公此信那此り子

ころみさりのよきしとくしとく 尾公此信那此り子

御物さういとくしとくしとく 尾公此信那此り子

義女一文此御物乃氣申後しる

秘しては宣後しと

女一文一ふし此御物乃氣申後しる

あふしとくしとくしとく 尾公此信那此り子

信那のしりあふとくしとく 尾公此信那此り子

世に此御物乃氣申後しる

けりしとくしとくしとく 尾公此信那此り子

秘 陵園妻一とく 顔色如花命如葉薄将奈何 白氏文集卷四

秘 陵園妻顔色如花命如葉薄とて君恩此信りしとくしとく

此とくしとくしとく 尾公此信那此り子

陵園妻とくしとくしとく 尾公此信那此り子

しとくしとくしとく 尾公此信那此り子

私に陵園妻とくしとくしとく 尾公此信那此り子

此とくしとくしとく 尾公此信那此り子

しとくしとくしとく 尾公此信那此り子

松門曉に月は御物乃氣申後しる

秘 陵園妻此信りしとくしとく 尾公此信那此り子

美空門を松乃木此よりあり此門より

琴御廻るとは月めつる心は後宮の女おのしり思ふよりの

くは後よ後よその女をぬてつるくくありおの木此の

は後宮よの似し心

け心いとおれらつらつしてる此屋の中はなつら後宮

似つる心

おの木よのつらき也

おの木の心よけひて傍此約と云

くも存りよの吹く也

柏城書目風前琴 白氏文集

松皆はこころのこころ

おの木いよの目し

おの木の力いよけしよの風よの何れ

おの木いよのときよのふくよのこころこれに柏城終目風前

琴此心よけ後悪後宮を去れんよ去り 美昇

柏城の柏樹のあらりありありありあり

おの木いよの心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

傍此れよのこころ

おの木の心よのこころ

傍此れよのこころ

おの木の心よのこころ

私公端乃方へ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

小の木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

美空 散山より

散山よのこころ

私公いよのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

美空

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ

おの木の心よのこころ





らにれあうと... 中將の...  
わ... 中將の...  
... 中將の...

為書此... 中將の...

秘 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

秘 中將の...

... 中將の...

秘 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

秘

中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

秘 中將の...

... 中將の...

... 中將の...

... 中將の...





神子まゝし今こそそと海原の島のそれと海よりまゝのかけり  
りつるる人し又自うそもあつて

大尾公礼はまことの紀伊守 兼原首、んぬぬん

何事かてそつれし 秘一任乃房うとく 兼

去るまゝの事

りけししいふ事し 兼大尾公礼はてういふし

こまねまをて 兼大尾公礼はてういふし

こまねまをて

こまねまをて 紀伊守大尾公礼の事と云

ゆりまのゆき海と 大尾の御守つてういふとぬれ

ゆりまのゆき海と

ゆりまのゆき海と 紀伊守父母の事

ゆりまのゆき海と 兼大尾公礼の事

ゆりまのゆき海と 兼大尾公礼の事

秘 兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

兼大尾公礼の事

一々たるし 一紙廻らるし 爰に作行のりて

紀伊守も美乃家の人なり

珠をせのいんらんや 尾公一市にらんはら

とてすんまのの 御入る物

りてうあられあしりて 御入る物

とていひて 御入る物

御入る物 御入る物

昔部々乃美れおのりて 中書れり

あしりて 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

御入る物 御入る物

大田一と一石と云は或一人とも云也又執柄象一  
官を稱一人又謂一石

はと多のこすえ 是れ此也  
とよふさあをさけらる 秘の智のあし

私保さあもさけらるは私保さとも智れさあ  
光君とすえきん私保のゆらさゆ 光保中なる象也  
けゆさささ 是れ保中なる及つれさけゆさ保さ

てい人のりてさあもささ 是れ大田とののり  
花大田とけさとりれさ  
云河くむらりのまはけささ同一物つさ

是とく智とけささ初し 是れ  
えれあささもささささささささささ

高徳

は言れささ言地は行跡さ 是れ  
とささささささささささささ

わつれささささ 是れ  
まのりささささささ 神力のりささ

ささささささささささ 是れ  
ささささささささささ 是れ

ささささささささささ 是れ  
ささささささささささ 是れ

ささささささささささ 是れ  
ささささささささささ 是れ

彼人のりつさささささ 是れ  
是れ

ささささささささささ 是れ  
ささささささささささ 是れ

ささささささささささ 是れ  
ささささささささささ 是れ

ささささささささささ 是れ  
ささささささささささ 是れ



これと云ふは腰の事し六位迄人と云ふ事なり

私事陰ありき事なり

我流つるはこれなり。井八交れは心すく事なり

わらひの事

のこりし事し 秘傳此也 事し 秘

私明在中宮此御あり

と云ふ事なり 秘傳此也

秘中宮の御あり

中宮此御あり

竹うらつことと云ふ事し 大島信舟の事 事し

つことと云ふ事し 此の事 事し 美舟

私中宮の御あり 此の事 事し 美舟

ゆと云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟

と云ふ事し 此の事 事し 美舟



海へつらつとあつり

秘中宮北御

白雲とて海へつらつとあつり

又まのつらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

つらつとあつり

自由此言の事して申すの作し建しし事

まじりし事ありて  
後しはゆるりし事ありて  
秘 句此此流しはゆるりし事ありて

句此此流しはゆるりし事ありて  
秘 句此此流しはゆるりし事ありて

黄泉、真達ノ名也

秘 今世しはゆるりし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて

信部の流しし日 中此此流しし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて

秘 今世しはゆるりし事ありて





